

飛騨市まちづくりレシピ

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？

大人も子どもも、いくつになっても
チャレンジできる河合！

河合小学校地域学校協働本部 ここあ



▲放課後に農業を学ぶ『小農塾』



▲大人も子どもも参加可能なばあちゃん食堂



▲お金の扱ひも実践で学びます



「河合っ子マルシェ」という活動をご存じですか？今回はその運営、サポートで「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」事業で文科大臣賞も受賞した「河合小学校地域学校協働本部ここあ」にお話を伺いました。

立ち上げのきっかけは2019年、国の方針で地域が学校に関わる仕組みの整備が求められることになりました。地域と学校がパートナーとなり「学校を核とした地域づくり」を目指していこうという取り組みで、現在はすべての学校でこういった活動が行われています。とはいえ、その活動内容は地域によりさまざま。地域ごとの特色がある活動です。

代表の野村さんはもともと河合小学校の先生でした。定年を迎えられ、地域づくりに関わっていきたくて考えていたところ飛騨市から声がかかりました。「河合小学校は現在生徒数が28人。人口も減っていて、このまま何もしなければ町はどんどん衰退していってしまう。でも、話を聞くと、地域にはやりたいことがある人たちも多いです。そういった人たちと連携して、河合を元気にしていきたい。」

そんな思いで立ち上がった団体ですが、スタートした2020年はコロナの影響で学校は休校に。そこで先生たちに授業の動画を作ってもらい、ケーブルテレビで配信を行いました。インターネット回線は家庭ごとに差があった河合ですが、逆にケーブルテレビが普及していたことで実現しました。

そして2021年には河合の子どもたちに商品開発から製造、販売までを考え、体験させる「河合っ子マルシェ」を立ち上げました。初年度はコンサルタントを迎え、参加を希望した子どもたちとマーケティングの基礎から学びました。コロナ禍でイベントは何度も延期になったものの、飛騨市の菓草フェスティバルで初めての販売体験を行うことができ、地元の山中和紙を使ったランタンや乾燥クロモジなどを販売しました。子どもたちからは様々なアイデアが出され、その後もクラフトコーラや飛米牛コロッケ、森の標本箱など様々な商品が生まれています。自分たちだけでは難しいことは、地域の事業者さんとのコラボも積極的に進めているそうです。

その他にも、地域のシニアと一緒に『ばあちゃん食堂という名前の子ども食堂』を開催し、子どもたちにも積極的に参加してもらったり、放課後に子どもたちと農業を学ぶ『小農塾』を実施したり。学校の教育目標は共通の目標として掲げながらも、学校ではできないこと、やりにくいことを行うという立場で活動されています。

今年から付けられた「ここあ」という団体名は「好奇心」「子ども目線」「遊び心」の頭文字。河合町は未来の子どもたちからの預かりものであり、更に未来につないでいく。子どもも大人もいくつになってもチャレンジできる河合の挑戦が今後も楽しみです。

基本情報

設立：2020年4月
メンバー：6人
活動地域：河合町
活動内容：学校運営協議会と協力して活動する実行部隊。

▼子ども目線の商品づくり



<河合っ子マルシェ出店情報>

飛騨市菓草フェスティバル
日時：9月3日(日)10時～12時
場所：飛騨市図書館前
販売商品：乾燥クロモジ
クズの花 など
ぜひお立ち寄りください！



飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/>

